授業展開例（道徳）

1．学　年　　第１学年

2．主題名　　かけがえのない命　　〈３－（２)〉

3．ねらい

家族の絆を通して生命の尊さを理解し，自他の生命を尊重する態度を育てる。

【普遍的視点】

生命の尊重・自尊感情

・自分を慈しみ育ててきた家族の心情を考えることなどを通して，自分の生命は決して自分だけのものではなく，家族や周囲の人にとってもかけがえのないものだということに気付かせ，生命を大切にしていこうとする姿勢を持たせる。

4．資料名

「飛鳥へ，そしてまだ見ぬ子へ」　（祥伝社）

5．展開

段階	主な学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	支援・評価
導入	写真①（父親が子どもを抱いて，じっと見つめている写真）を見る。 ワークシート１に「親にとって子どもはどんな存在か」を書き発表する。	**写真を見て，親にとって子どもというのはどういう存在かを考えてみよう。** ・かわいい存在 ・大切な存在 ・かけがえのない存在 ・心配な存在	写真①を見せる。 ワークシートに書かせ発表させる。 【ワークシート・発表】
展開	資料（『飛鳥へ，そしてまだ見ぬ子へ』）の範読を聞く。 資料の背景についての説明を聞く。 **自分の命があとわずかだと知ったらどんな気持ちになるか考える。** 手紙の中に書かれた井村さんの願いを考える。	井村さんという医師が子どもたちにあてて書いた手紙を読んでみよう。 **人は，自分の命があとわずかだと知ったとき，どんな気持ちになるだろうか。** **自分の命があとわずかだと知った井村さんは，どんなことを願ったのだろうか。** ・心の優しい，思いやりのある子に育ってほしい。 ・父親がいなくても，胸を張って生きてほしい。 ・困難にあっても負けないで耐え抜いてほしい。 ・倒れても自分の力で起きあがってほしい。 ・幸せになってほしい。	資料を範読する。 資料の背景を説明する。 ２～３人に指名。 **死を目の前にした井村さんの気持ちを考えさせる。**

展開	写真②（井村さんが娘を抱いている写真）を見て，井村さんの考えを想像し，画用紙に書いて発表する。 Ｔ２の話を聞く。 （概要） 個人的体験も踏まえて， ・生命の大切さ ・井村さんの話と生徒の保護者の思いをつなぐ ・周りの多くの人の支えや祝福について	写真の井村さんは飛鳥ちゃんを見つめてどんなことを考えているのだろうか。 ・自分のことを忘れないでいてほしい。 ・いつまでもこうしていたい。 ・死にたくない。 Ｔ２の話を聞こう。	写真②を見せ，想像したことを画用紙に書いて発表する。 **○生命の大切さに気付いたか。** 【発表】 （Ｔ２） **妊娠から育児までの過程を科学的，心情的に理解させ，生命の不思議さや大切さに気付かせる。** ・母親としての体験や子どもに対する思い ・すごい確率で産まれてきたこと ・周りの人の多くの祝福や支えがあったこと ・今，自分が生きているということ，そして，これから生きていくということ
まとめ	家族からの手紙を読む。 手紙を読んだ感想を書く。 感想を発表する。 学習のまとめをする。	みんなの家族から手紙が届いているので読んでみよう。 家族からの手紙を読んだ感想を書こう。 感想を発表しよう。	生徒の家族からの手紙を渡す。 **○自分の生命は家族や周囲の人にとってかけがえのない存在であることに気付いたか。** 【感想】 ワークシートを集める。

６．評価

自分の生命は決して自分だけのものではなく，家族や周囲の人にとってもかけがえのないものだということに気付き，生命を大切にしていこうとする気持ちが生まれたか。　【生命尊重】

９．授業後の反応

（生徒の反応）

・父さんと母さんが一生懸命がんばって心配しながら産んでくれてとてもうれしかった。
・母さんや父さんやじいちゃんばあちゃんが僕をここまで元気に育ててくれていたとは知らなかった。
・手紙を読んでうれしかった。
・家族に支えられて生きていることがよくわかった。ここまで育ててくれた家族に感謝している。
・オレは母ちゃんの腹からうまれた。オレは世界に一人しかいない父ちゃんと母ちゃんの子だ。

（新聞記事）　　…産経新聞（平成１５年１月４日）より

…

国語が専門で１年生のクラス担任のＢ教諭と，授業の補佐役を務める養護のＣ教諭が授業案を練りあげた。

二人が「命」を知る手がかりに選んだ資料は，Ｂ教諭が２０年以上前に読んだ図書「飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ」。がんのため昭和５４年に３１歳の若さで亡くなった内科医，井村和清さんが死の直前まで書き続けた妻や娘たちへの手紙や手記だ。

子供たちへの手紙には父親として残したい精いっぱいの愛と励ましの言葉があふれ，手記には「幼い飛鳥や妻の胎内にいるふたりめの子を想うと，這ってでも生きのびたい」と，生への執着がつづられている。

手紙と手記を読み，初めて「死」に直面した生徒たち。Ｃ教諭は，自らの出産と育児の経験についてもありのまま語り，「生きている」ことのすばらしさを説いた。

そして最後に，１０人の生徒にそれぞれの母親からの手紙が渡された。この授業のため，Ｂ教諭がこっそり母親たちに依頼していた。

「えーっ，聞いてないよ」と声をあげる生徒たち。しかし，便箋２枚に凝縮された手紙を読み始めたとたん，教室は静まり返った。

井村さんの手記やＣ教諭が語った以上に，自分たちのすべてを思いやる言葉が詰まった母親の手紙に，目を離すことができなくなった。ある生徒は優しい表情を浮かべ，別の生徒は笑みをたたえた。涙が止まらなくなった生徒も…。

このあとＢ教諭は，手紙の感想を全員に書かせた。ある男子生徒は「おれは，世界に一人しかいない，父ちゃんと母ちゃんの子だ」と，短く，熱く，みんなの前で発表した。そして母親の手紙を大切そうに胸のポケットにしまった。

Ｂ教諭とＣ教諭は「あんなにいい表情を生徒たちがみせたのは初めて。お母さんたちには，本当にご苦労をかけましたが，この授業をきっかけに子供たちが少しずつ変わってきたように思います」と話した。

沖縄在住の井村さんの妻，倫子さんは「命の尊さを伝えるのに役立ったのでしたら，きっと夫も喜んでいると思います」と感謝していた。

１０．授業記録

本時授業から生徒の反応

	主な発問	生徒の反応
導入	この写真を見てください。（写真１）お父さんが子どもを抱いている写真です。お父さんは子どもをじっと見つめていますね。よく見ると子どももつぶらな目でお父さんのことを見つめていますよ。この写真を見て，親にとって子どもというのはどんな存在だと思いますか。プリントの１に考えたことを書きましょう。発表してください。	・自分たちの大切な宝物。 ・子どもは自分の一番の宝。 ・とても大切でかわいくて，自分たちが生きていく上で支えになる存在。 ・宝物のような存在。 ・とても大切で親にとって必要な存在。 ・ふつうの存在。 ・かわいくてかけがえのないもの。

展開	今から，ひとりのお父さん。井村さんという医師が娘の飛鳥ちゃんと，妻のお腹の中にいる，まだ産まれていない子どもにあてて書いた手紙を読みます。彼は子どもたちにどんなことを願っているのかを考えながら聞いてください。気付いたら印をつけておきましょう。 ―資料― 手紙の中に肉腫という言葉がありましたね。これは悪性のはれもので，癌のことです。 手紙を書いた時，井村さんは癌にかかっていて，あとわずかしか命がありませんでした。医師である彼はそのことを一番よく知っていました。はじめ右膝に癌が見つかり,その癌がほかに広がらないようにするために右の脚を９㎝ほど残して切断しました。そしてつらいリハビリを行い，義足で職場に復帰して医師として患者さんの治療にあたっていましたが，３ヶ月くらいたったときに，肺に癌が転移していて，もう手術もできないほど病気が進行していることがわかったのです。 その時，彼は自分の命があと半年しかないという判断をします。そして動けるうちは医師として働きたいと考え，実際，亡くなる２ヶ月ほど前まで患者さんの治療にあたりました。 さっき読んだ手紙は，自分の命があとわずかだと知って書かれたものですが，人は自分の命があとわずかだと知った時にどんな気持ちになるのでしょう。あなたならどんな気持ちになると思う？	・悔しい ・みんなと別れたくない ・死にたくない ・あせる
	井村さんはどんな気持ちになったでしょうか。遺されたノートに「死にたくない」「這ってでも生きのびたい」とありますね。このほかに手紙には井村さんのどのような願いが書かれていましたか。	・心の優しい，思いやりのある子に育ってほしい。 ・父親がいなくても，胸を張って生きてほしい。 ・困難にあっても負けないで耐え抜いてほしい。 ・倒れても自分の力で起きあがってほしい。 ・幸せになってほしい。
	この写真を見てください。（写真２） この写真は井村さんが亡くなる何ヶ月か前のものです。飛鳥ちゃんを抱いてお風呂に入っている写真です。飛鳥ちゃんを見つめていますね。この時井村さんはどんなことを考えていると思いますか。マジックと紙を配るので書いて出してください。貼った物を自分で読んでください。	・大切な子を置いて死にたくない。 ・ずっと抱いていたい。 ・これからもずっと飛鳥ちゃんと一緒にいたい。 ・飛鳥とはもう少ししかいられない。寂しい。 ・少しでも長く娘の笑顔を見続けていたい。

展開	それでは次に先生にお話をしていただきます。 ―Ｔ２の話―	・もっと生きて，飛鳥と一緒にいたい。 ・これからもやさしく育ってほしい。子どもを残して死にたくない。 ・飛鳥とまだ離れたくない。二人めの子どもを一度でいいから見たい。 ・まだ，子どもたちといっしょに遊びたい。 ・写真をいっぱい撮って，お腹の子にこれが父だと知らせたい。 ・自分が死んでも忘れられたくない。 ・この子を残して死にたくない。
まとめ	みなさんは今まで家族から手紙をもらったことはありますか。 実はここに，みなさんの家族に書いていただいた手紙があります。読んでください。 今手紙を読んで思ったことをプリントに書きましょう。 手紙を読んだ感想を発表してください。 保護者のご了解をいただいてみなさんへの手紙を読ませてもらいました。一通一通の手紙に，みなさんへの深い思いが詰まっていて，読んでいるうちに涙が出ました。この手紙はみなさんにとって宝物です。５年後１０年後，そして何かの壁にぶつかったとき，あるいはみなさんが親になったときに取り出して読んでみてください。今日は井村さんの手紙，先生の話，そして家族からの手紙で学習してきました。みなさんは命についてどんなことを考えましたか？今日の授業を自分の命や周りの人の命についてこれから考えていくきっかけにしてもらえたらと思います。	（家族から手紙をもらったことがあるかという問いかけに，全員首を振る。家族からの手紙があることを伝えると「えー，いつ書いたん。そんなん聞いてないよ。」の声があがる。） ・父さんと母さんが一生懸命がんばって心配しながら産んでくれてとてもうれしかった。 ・母さんや父さんやじいちゃんばあちゃんが僕をここまで元気に育ててくれていたとは知らなかった。 ・手紙を読んでうれしかった。 ・家族に支えられて生きていることがよくわかった。ここまで育ててくれた家族に感謝している。 ・オレは母ちゃんの腹からうまれた。オレは世界に一人しかいない父ちゃんと母ちゃんの子だ。

授業者Ｔ２の役割

（１）　授業全体を通して伝えたかったこと

・井村さんの死と新しく産まれてきた生命を対比させながら，生命の大切さについて考えさせる。【生命の尊重】

（２）　養護教諭の本授業の中でのＴＴとしてのかかわり

・井村さんを題材にした話とクラスの子どもたちの普段の生活に根ざした中での保護者の願いや思いを橋渡ししてつなげる役目

・担任が話しているときは，授業に対する生徒の反応や行動を観察し，事後の評価の際に，参考にする。

（３）　ＴＴ場面で伝えたかったこと

・養護教諭とひとりの母親という両方の立場から，妊娠から育児までの過程を，科学面，心情面の両面から理解させ，生命の不思議さや命の重さ，大切さ，生きていることの意味について考えさせる。【生命の尊重】

・すごい確立で産まれてきた自分は，まわりの多くの人の支えや祝福があり，今，自分がこの世に存在していることを理解させる。【自尊感情】

（前時の学習の内容を踏まえて）

授業は，生徒の表情や反応を確かめながら，写真を９枚使って，紙芝居のように使いながら，話を進めていきました。

写真は，個人的なものを８枚，受精卵の写真を含めて合計８枚です。

写真　１　（受精した瞬間の写真）

これは，何の写真かわかりますか？

受精卵が，細胞分裂をくり返しながら，誕生までの２８０日間をお母さんのお腹の中で育っていく様子をビデオで見たのを覚えていますか？と問いかけ，話を始める。

写真　２　（兄弟で弟をのぞき込んでいる写真）

弟が産まれて喜んでいる家族の様子を伝える

写真　３　（七夕さまの日の写真）

赤ちゃんが元気に成長してくれるようにお祈りしている兄弟の様子

写真　４　（父親に抱かれている写真）

子を思う父親の気持ちを伝えるこの写真は，授業の導入時に使う

※　ここで，実際の胎児の心音を目を閉じて聞かせる

写真　５　（母親に抱かれている写真）

病気で入院中の子どもを抱いている母親

母親の子を思う気持ちを伝える

写真　６　（ベッドの上で横になっている子どもの写真・看護婦さんに抱かれている写真の２枚）

写真　７　（卒業式の写真）

とても元気になって，卒業式を迎えたときの，親の気持ちを伝える

写真　８　（父親といっしょに歩いている後ろ姿の写真）

これは，今年の３月に撮影したものです。高校生になりました。身長はついにお母さんを追い越しました。お父さんとは，まだ随分差があります。

この子の頑張っている姿を見ると家族のみんなはいつも勇気づけられてきました。命の重さをみんなに教えてくれました。これからも，自分の命を大切にしてほしいと思います。

いつも楽しいことばかりではないと思うけれど，生きているからこそ，いろいろなことが体験出来ます。これからたくさんの人と出会って，嬉しかったり，悲しかったり，悔しかったり，感動したり，空の青さや季節それぞれの風の香りや山々の紅葉や花を美しいと感じたり，食べ物がおいしいと感じたり，友達と遊んだり，自分の好きな音楽を楽しんだり，部活を頑張ったり，それからきっと，好きな人にも巡り会う日がくることでしょう。

何かひとつでも多く，この世界にあふれている輝きに気付いたり触れて欲しい。命があるということは，生きているということは，そういう輝きを知ることで，心も体もより豊かになっていくものではないかと思うのです。

みなさんもどうか，親からもらった，世界にたったひとつしかない，何億分の１という確率でこの世に産まれてきた命を，精一杯輝かせて，自分の命も他の人の命も，どうか大切に，大切にしてほしいと思います。

（資料）

「ふたりの子どもたちへ」

心の優しい，思いやりのある子に育ちますように。悲しいことに，私はおまえたちが大きくなるまで待っていられない。私の右膝に発症した肉腫は，私が自分の片足を切断する手術を希望し，その手術が無事にすんだにもかかわらず，今度は肺へ転移した。肺の中で増殖しはじめたその肉腫は，懸命な治療に対してそれを笑うかのように広がりつづけ，胸を圧迫し呼吸を苦しめる。もうあとどれだけも，私はおまえたちの傍にいてやれない。こんな小さなおまえたちを残していかねばならぬのかと思うと胸が砕けそうだ。

父親がいなくても，胸を張って生きなさい。

これからは熱が出，咳きこみ，血を吐き，もっともっと苦しい思いをすると思うが，私は最後まで負けない。おまえたちの誇りとなれるよう，決して負けない。だからおまえたちも，これからどんな困難に逢うかもしれないが，負けないで，耐えぬきなさい。

人間は，死ねばそれで全てが無に帰する訳ではない。目には見えないが，私はいつまでも生きている。おまえたちと一緒に生きている。だから，私に逢いたくなる日がきたら，手を合わせなさい。そして，心で私を見つめてごらん。

さようなら。

私はもう，いくらもおまえたちの傍にいてやれない。おまえたちが倒れても，手を貸してやることもできない。だから，倒れても倒れても自分の力で起きあがりなさい。

さようなら。

おまえたちがいつまでも，いつまでも幸せでありますように。

雪の降る夜に　　父より

「遺されたノートより」

このさきいったいどうなるものか。春までは生きていられるか。あるいは夏までか。あるいは二月の初め頃にでも目を閉じねばならぬのか。分かりません。

死にたくありません。幼い飛鳥や，妻の胎内にいるふたりめの子を想うと，這ってでも生きのびたいと思います。しかし，私は医者であり，私自身なのです。医者としては，あと，数ヶ月の生命と，判断せざるをえない。ただし，奇跡が起きなければという条件つきです。

あとどれだけ，父母や妻や飛鳥の傍にいられるのか。砂時計のように時はサラサラと流れ落ちてゆきます。

「飛鳥へ，そしてまだ見ぬ子へ」（祥伝社）

家族からの手紙を読んだ感想

Ｓ１　母が僕に手紙を書くなんて思ってもいなかったし，僕が産まれるまでたくさんの苦労があったことを知ることができてよかった。

Ｓ２　私が産まれるまでとても大変だったということがよくわかりました。そして，私は未熟児で産まれて普通の赤ちゃんより，とても大変だっただろうなと思いました。

Ｓ３　僕はこの世界に産まれて，何度もケガをしたりしました。2 年生のころ交通事故にあって，僕はもうだめなんじゃあないかと思ったけどはげましてくれました。おかげで僕はこんなに元気になって，毎日のように学校に通い，みんなと楽しく遊び，楽しい人生を歩んでいくことがでました。本当に感謝しています。

Ｓ４　父さんと母さんが，あんなことを考えているとはとても思わなかった。自分は親が僕のことをどう思っているかなんて考えたこともなかったけど，これからはもっと考えてみたいと思った。

Ｓ５　手紙とかあんまり親からもらったことはなくて，とてもビックリしました。いろいろな話は聞いたことははあったけど，手紙ではなかったのでビックリでした。赤ちゃんを産むのはいやだったけど，がんばる。

Ｓ６　初めて，母さんから手紙をもらいました。今まで，母さんが私のことをどう考えているか分からなかったけど，手紙を読んで分かりました。母さんは，私のことをこんなにも大切に思ってくれているんだなあと思いました。そしたら，とてもうれしくてうれしくて涙が出てきました。今度は私から手紙を書こうと思いました。
命は本当に大切で重いものだと思いました。

Ｓ７　母さんや父さんやじいちゃんばあっちゃんが僕をここまで元気に育ててくれていたとは知りませんでした。僕はこの手紙を読んでとてもうれしかったです。

Ｓ８　父さんと母さんが一生懸命がんばって心配しながら産んでくれてとてもうれしかったです。

Ｓ９　私がここまで大きくなれたのも，たくさんの人の助けがあったからだと思います。本当に尊く大切な命であることがよく分かりました。家族に支えられて生きていっていることのうれしさもよく分かりました。ここまで育ててくれた家族に感謝しています。

Ｓ10　オレは，母ちゃんの腹から産まれた。オレは世界に一人しかいない父ちゃんと母ちゃんの子だ。

「生命を考える」授業を通して考えたこと

Ｓ１　命の大切さが分かった。どんな所が分かったかというと，自分が産まれたことはものすごくすごいことで，みんなとも会えたことがとてもすごいことが分かった。この「命を考える」という授業をして自分の生命は尊いもので自分の生命のある限り生きぬこうと考えた。

Ｓ２　この前の授業では，手紙を読んだりして命についてよく分かりました。一生懸命生きて，子どもを残して死にたくないという気持ちがとてもよく分かりました。そして先生のお話では，大変だけれども，一生懸命がんばってるんだなあと思いました。私は命はとても大切なものなんだということが分かりました。今まであまり命について考えてはいなかったけれど，命についてよく考えるようになれたと思いました。

Ｓ３　一人の命がなくなるとみんな悲しみます。命というものはなくなるともどってきません。命というものは生きていく上で，なくてはならない存在です。動物にも植物にも虫たちにも命はあります。今，僕たちが産まれ，たくさんの友達と遊んでいることが普通に見られますが，それは数少ない確立の中で友だちにめぐり合えました。今生きていることはとてもいいことだと思いました。

Ｓ４　井村さんとか先生の話を聞いて，僕はみんな本当に子どもを大事にしているんだと思いました。最近は子どもを殺す親がふえているけど，それは絶対にしてはいけないと思う。子どもをもっと大切にして欲しい。そういう行為をしないでほしいと思う。子どもは親の宝なんだから。命はたくさんの人の中でつくられている。たくさんの人のおかげで僕は産まれて生きているんだから，たくさんの人のためにも命を大切にしていきたいと思う。

Ｓ５　生命はとっても大切なものということが分かりました。それに私の弟も心臓の病気がありました。でも弟は死んでしまいました。私は１歳だったので覚えていないけど今思うと「生きてたらなあ」と思うことがあります。だから命というものは大事なものだから大事にしていきたい。そして，女の人しかできないという出産は，また一つの生命が産まれてくるものなので大事にしていきたいです。赤ちゃんを産むのは大変だと思うけど，命がまた一つ増えることにつながると思います。

Ｓ６　命というものは，とてもかけがえのなく大切なものだと思いました。一人の人の命をみんなで支えていることは，命を大切にしていることだと思いました。数多くの中から産まれてきたそのその命を私は，とてもかけがえのないものだと思いました。今まで，命のことに関してあまり分かりませんでした。でも，この授業で生命とはどういうものなのかということが分かりました。「命を表現する」という授業で私は，新しい命が誕生しているところを表現しました。他の人は心や臓器だったりして，命はいろんなものがあるんだなあと思いました。私はお母さんが大切に育ててくれた命を絶対に大事にしていこうと思いました。

Ｓ７　命の大切さをあらためて感じました。僕はこの世に生きていて一度もそんをしたことはありません。毎日がとても楽しく，先のことはだれにも分からないし，とてもわくわくした毎日をすごせて本当によかったなと思いました。この世に産まれてきてと

てもうれしいし，いろんなことに挑戦できるし，本当にそんはありません。

Ｓ８　命の大切さがとても詳しく分かりました。母さんや父さんがどんな思いで僕たちを産んでくれたかが分かりました。子どもを思うお父さんやお母さんの気持ちはとても深いんだと思いました。

Ｓ９　命はたつたひとつのもので一度止まれば，もう動かなくなってしまうものだから，今動いていることに感謝しないといけないと思いました。けれどそれは，人に囲まれて育っているからだと思います。世界にはたくさんの命があると思うけど，一つ一つがだれかに必要とされている命だと考えたらうれしくなります。たった一つの命を大切にしようと思います。どんなに大変なことがあったりしても命を傷付けることなどは絶対にしてはいけないことだと思う。今，必死で生きていこうとしている人も，今命を失った人もいる中で，そんな人たちのためにも，一生懸命この時をこの仲間といっしょに過ごしていこうと思います。本当にこの時間で命の大切さが分かりました。ありがとうございました。

Ｓ10　僕は，命はすごいと思いました。命はそんなすぐにできるものではなく，夫婦が１つになったとき命は誕生するのだと，僕は思いました。命を大事にし，すぐ死ぬとか体が不自由な人にむかって，傷付くことを言ったりせず，助け合っていきたいと思いました。